

研究だより

No. 10

押水第一小学校

令和4年 11月16日

11月14日 6年研究授業(大岡先生)より

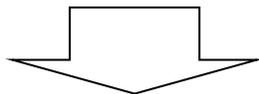
大岡先生に国語科「Unit6 Let's think about our food.」の授業をして頂きました。整理会で成果・課題・改善策について中能登教育事務所指導主事の山森先生より助言をいただきました。

視点1: 友達と対話し、自分の考えを英語で表現できるように、話型を用いて話し合いする活動を設ける。

成果	<ul style="list-style-type: none">子どもたちは、これまでの積み重ねやペア・グループ活動が十分にあり、話型が定着していた。教師とALTのやりとりを推測しながら聞いたり、十分にアウトプットしたりする時間があり、児童が見方考え方を働かせることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none">苦手な児童への支援として、フレーズを全体で確認するとよい。ただし、単元のゴールや目的を軸に、どんな表現が使えるかを児童が考え、自分なりに表現できるようにする。クロームブックをどの場面で使用するか検討する。画面をずっと見ていたため、目線を合わせての会話が難しい。
改善策	<ul style="list-style-type: none">単元のゴールを共有し、相手意識、目的意識をもって取り組めるようにする。どのような内容を伝えたいかを優先し、その後どんな表現が使えるかを児童が主体的に考えられるようにする。評価の仕方として、クロームブックの動画撮影やライティングが活かせるのではないかな。

視点2: 学びを自覚することができるようにするために、ふりかえりで自分の考えを記述する場の設定をする。

成果	<ul style="list-style-type: none">ふりかえりを共有する時間があってよかった。音声を聞いて文字にする活動を取り入れてあったのがよかった。
課題	<ul style="list-style-type: none">ふりかえりで「～できた」など表面上の表現が多かった。内容に対するふりかえりを書けなかった。
改善策	<ul style="list-style-type: none">ふりかえりの視点を提示することで、児童の考えを明確にする。児童の気づきを共有する場や、児童の表現を具体的に価値付ける場を大切にする。



明日から全員が実践すること

- ◎相手意識・目的意識をもって単元のゴールを設定し、児童との共有を図る。
児童の表現を具体的に価値づける。